

■まちづくり実践教育事例集 30■

湊川プロジェクト―学生参画による商店街活性化の試み―

商店街, 学生参加, 神戸

川北健雄 (神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科)

1. 活動の概要

神戸市兵庫区の湊川商業地域には500以上の店舗が集中し、神戸の台所とも呼ばれるが、近年客足は減少傾向にあり、活性化のための何らかの対策が必要となっている。神戸芸術工科大学では、2003年秋に川北研究室がこの地域にあるミナイチ地下広場の改装を手がけて以降、学生参画を通じた様々な商店街活性化のための活動に関わっている。

環境・建築デザイン学科では2004年度後期に、3年生の実習課題「地区マスタープランの作成」の想定敷地のひとつを湊川地域に設定した。課題のための調査を目的として現地を訪れた学生の中には、この辺りの下町的な雰囲気に魅力を感じる者も多かった。課題終了後は現地で公開プレゼンテーションを行い、学生たちは商店街、地域、ならびに行政側の人々から、自らの提案に対する貴重な意見を伺う機会を得た。

その後、実習課題を通して抱いた関心を継続的に発展させて、この地域や商店街に関する問題を卒業研究のテーマとする学生が複数現れ、現在では湊川地域の商店街を活性化するための様々な取り組みに多くの学生が協力し、自主的な活動を展開するに至っている。

2. 運営形態と地域との関わり

湊川地域には、マルシン、東山商店街、湊川中央小売市場(ハートフル湊川)、ミナイチ、湊川商店街の5つの市場と商店街があり、これらが一緒になって「神戸新鮮市場」が形成されている。しかしながら、連合体としての組織力は弱く、学生たちが活動を行う際には、いずれかの商店街と個々に連携をとっている。

商店街側から大学側に協力が求められるのは、地域活性化のための何らかの公的な助成金による事業が行われる場合が多い。これまでのところ、神戸市産業振興財団からの要請で川北研究室が窓口となり、学生たちへの橋渡しと助言とを行っている。ただし具体的な活動内容に関しては、学生たちが直接各商店街の担当者として打ち合わせして企画運営を行っている。学生たちにとっては、まちづくりに関する自分たちのアイデアを、商店街において具現化して実施できることが大きな魅力である。一方、各商店街にとっては、既成概念にとらわれない学生たちのアイデアは新鮮で、企画に必要な人員を確保する上でも、学生たちの協力を得やすいという利点がある。

各種助成制度の中で注目されるのは、兵庫県神戸県民

局による「学生による商店街活性化事業」である。この事業は助成金の支給対象を学生による団体としているため、学生自らが責任主体となって自由な発想のもとに考えた企画を、商店街という場をお借りして実践的に検証することが可能となっている。

3. これまでの成果と今後の課題

ミナイチでは先述した地下広場でのイベントに関して学生たちに直接協力依頼が寄せられることが多く、アルバイトとしての運営補助といったものから、学生たちの企画提案によるインスタレーションや写真会といったものまで、年間を通して様々な行事が開催されている。

神戸新鮮市場のホームページは、現在変則的な形でマルシンが運営しているが、その更新について芸工大の学生に協力要請があったことをきっかけとして、学生たちが自主運営する湊川商業地域の応援サイトも開設された。ここでは、神戸新鮮市場全体を対象とした各種イベントや店舗紹介、実験的企画の広報などが行われている。

パークタウンでは、上記サイトの開設キャンペーンが実施され、さらに空き店舗スペースを活用して学生作品の展示販売も行う商店街活性化の拠点づくりなども検討されている。

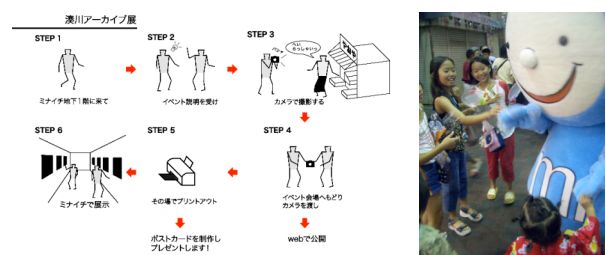


図1 学生によるイベント企画の一例

写真1 オリジナルキャラクターの着ぐるみ

日頃若者の姿が少ない商店街では、学生たちがそこで活動すること自体が歓迎され、これまでのところ、両者の関係は良好である。しかしながら、彼らの活動が実際に商店街に対してどれほどの利益をもたらしているのかはさほど明確ではない。両者の協力関係をうまく継続してゆくためには、大学と学生、商店街と地域、の双方にとってメリットのある、長期的なビジョンにもとづく連携の仕組みづくりが必要になりつつある。

4. 参考文献 (URL アドレス)

- 1) 「湊川プロジェクト」(川北研HP内)、<http://www.kobe-du.ac.jp/env/kawakita/>
- 2) 現場主義! 都市計画・まちづくりを学ぶ学生交流会報告書、日本建築学会近畿支部都市計画部会、2006年3月、pp123-128